

地域福祉活動計画策定委員会 第2回委員会 会議録

1. 日時 平成25年11月19日(火) 13:30-15:30
2. 場所 小諸市人権センター 大会議室
3. 参加委員等(15名)
中村委員長、山本副委員長、小川委員、坂本委員、相良委員、竹中委員、田中委員、中山委員、西川委員、福島委員、牧野委員、松本委員、三島委員、村上委員、望月委員、小林アドバイザー
欠席委員等(1名)
上野谷相談役
4. 内容
 - (1) 開会
 - (2) 前回の振り返りと今回の目的の確認…資料2ページを基に小諸市社会福祉協議会小山事務局長より説明。
 - (3) 協議事項
 - ① 地域の力のまとめ方について…事務局案を基に意見交換を行い、4つの要素に分けて情報整理とする。
 - ② 豊かな地域の4つの要素について…事務局案を基に意見交換を行い、落とし込む情報の整理の仕方を確認する。
 - ③ 住民、各種団体との意見交換会について…事務局案を基に意見交換を行い、事務局概要での実施とする。
 - (4) その他
情報公開の状況について(資料④)…事務局資料を基に情報公開の状況を確認する
 - (5) 次回会議
平成25年1月21日(火)15:00~とし、委員会終了後に新年会を開催。場所は事務局で調整とする。
 - (6) 閉会

議事要点

1. 開会

(委員長)：第1回策定委員会では計画の方向性を決めた。それを踏まえ具体的な計画の策定に向けた意見交換をすすめたい。

2. 前回の振り返りと今回の目的の確認

(委員長)：それでは事務局より説明を。

(事務局)：前回の振り返りとして決定事項を報告する。

- ① 委員会の公開について了解いただいた。本日はコミュニティテレビこもろに取材頂いている。前回以降の情報公開状況は後程、担当より説明する。
- ② 今回の計画が目指す方向性が以下のように定められた。
 - ・ 地域における支え合い活動を把握し、その結びつきを支援していく。
 - ・ 地域の声も多く集め、計画に反映させる。
 - ・ 計画の表現は親しみやすいものとする。
 - ・ だれにとっても自分の計画と認識してもらえるような内容とする。
- ③ 本委員会の開催は奇数月とし、答申は平成26年9月を目標とした。
- ④ 委員会以外の場で委員同士の意見交換の機会の確保や、地域声を委員が直接聞くことが出来るような機会を作る必要性が確認された。

次に今回の目的について説明する。資料2ページの漫画『みんなの声を聞く』の巻で第4回策定委員会までの流れをカレー作りに例えた。おいしいカレーを作るためにみんなの声を直接集めようという内容。この漫画の中の「意見交換会」に向けた具体策の検討が今回の目的となる。なお、意見交換会については、前回の委員会で「ヒアリング」という表現を使っていたが、実態に合わせた表現に変更した。

(アドバイザー)：この計画自体は、小諸市の支え合いの具体策を考えるものであるが、策定作業を通して、住民、地域の力を育てていけると良い。この策定委員会の特色として漫画の活用が挙げられる。この手法は長野県社会福祉協議会内で評価が高い。漫画で思いを伝えることは有効な手段であり、文字通りお互いの顔が見える計画にするために、委員の似顔絵が今後掲載されることを期待している。

3. 協議事項

(委員長)：事務局の説明のとおり、意見交換会について具体的な内容の検討が今回の目的である。時間的な制約があるので、二つに論点を絞る。一つ目は現在社会福祉協議会が把握している地域の力のまとめ方について。協議事項では「(1)地域力のまとめ方について」と「(2)豊かな地域の4つの要素について」について一体的に事務局より説明を。

(1) 地域力のまとめ方について (資料①)

(2) 豊かな地域の4つの要素について (資料②)

(事務局)：資料①、②を基に事務局案を提示。

社会福祉協議会内にある地域の力に関する情報を収集したところ、視覚化するためには情報を分類する必要がある。情報を次の4つのテーマに分類、整理したので叩き台として提示する。

(委員長)：本日の委員会開始前に他市町村地域福祉活動計画書の資料を確認された方も多いと思われる。それらを参考にしながら小諸方式を考えたい。

(委員)：資料4-7ページにある「社会福祉協議会としての中間分析」では地域のつながりは増えていると分析されているが私に実感はない。自力で公民館等まで移動できない高齢者を近所で送迎する支え合いなど、つながりが増加している部分はある。一方、公民館活動

に参加している男性は参加者のうち 2 割程度である。男性に限らず地域とのつながりが弱い方が多いと感じる。

(委員長)：全国的に男性の地域とのつながりが弱いことは課題と言われている。

(委員)：資料 6 ページ「現状で社会福祉協議会が把握している数値化できる情報」の中に介護予防地区指導者登録者数があるが、研修修了者数ではなく実際に活動されている方の数を知りたい。また、この方々以外で介護予防に関する活動をしている団体と社会福祉協議会の連携について知りたい。

(事務局)：介護予防地区指導者の活動に関して平成 24 年度にアンケートを実施。実際に地域で活動している方は全体の 3 割強。介護予防に関する活動をしている団体との連携では地域の給食会などにボランティア団体の協力をいただいている。一方、独自に活動している団体の情報は把握していない。

(委員)：介護予防に関する活動をしている団体として NPO 法人などが考えられるが、今後の情報把握は如何に？

(事務局)：社会福祉協議会が地域に出向く際に情報を集める。NPO 法人との連携は社会福祉協議会としてこれからの取り組みとなる。情報を集める段階であり、情報提供をお願いしたい。

(委員)：社会福祉協議会が積極的に地域に出かけ、情報収集をしていただきたい。

(委員)：高齢者クラブなどに参加している高齢者はつながりや支え合いがある。一方で、これらの活動に参加しなくなった方の状況は高齢者クラブ連合会では全く把握できていない。参加しなくなった要因を分析し、支援を考えていくことは地域の支え合いを考える上で重要だと思う。

(委員)：ボランティアセンターの仲介により、おもちゃなおし隊の活動は広がっている。仲介者の存在は活動拡大やつながり維持において大切な要素。資料 4-7 ページの「現状で社会福祉協議会が把握している数値化できる情報」は貴重な資料。総対象者数と実人数が把握できれば事業の方向性を示せるのでは。

(委員)：500 世帯のうち 150 世帯が区に未加入という区がある。区に未加入の市民には市報や社会福祉協議会の情報誌、赤い羽根募金のお願いや社協会費のお願いも届かない。民生委員はその方々の情報が把握できていないので困る。地域の支え合いを作る上での問題点である。

(委員)：公民館活動上の課題として参加者の減少がある。要因として少子高齢化が考えられる。また、地域の方が公民館活動の必要性を感じていない印象もある。地域のつながりは弱くなっていると感じる。

(委員)：赤い羽根共同募金の街頭募金に立った際、「隣組単位で集金される 500 円の募金は経済的に厳しい」と言いながら 100 円の募金くださった高齢者がいた。思いはあっても行動に結びつきにくい方が地域にいることを受け止める必要性を感じている。

(委員)：生まれ育った区の中に職場があり、道すがら愛称で声を掛けられる。つながりのある地域では、地域の支え合いのために活動したいと思うし、活動の中に楽しさを感じる。一方で、住まいのある区に 20 年住んでいるが休みの日しか日中過ごさないため、近所とのつながりは弱く、区内の集まりに参加しにくさを感じる。しかし、数年前に地区の役員を務めたことがきっかけで区内のつながりができ、公民館のありがたみを感じる事ができた。思いだけではなく、つながるきっかけも大切な要素。

(委員)：子供にとっても、高齢者にとっても地区でのつながりは必要で、公民館は大切な場所である。

(委員長)：ここまでの議論で、公民館と社会福祉協議会が目指している方向性は近いものの、具体的な連携方法が課題だと感じた。行政の立場からはいかがか。

(委員)：行政としても、区未加入者と区の連携については課題と捉えている。当市には住民自治基本条例があるものの、条例制定が目的化した面がある。今後は条例の内容に関する質を高めていきたい。

行政主導の企画は、参加者をお客様として捉え、参加者も受け身な姿勢で参加することが多い。協働の視点に立ち、企画者と参加者が役割を分担し、共に作り上げる取り組みにしていきたい。

公民館活動と地域福祉の関係性を考えるにあたり、高齢者福祉センター糠塚園の位置づけを明確にしたい。

小諸市内には限界集落といわれる地区もある。このような区の自治の在り方、支援の在り方について考えていく必要もある。

(委員長)：キーワードや解決すべき課題の輪郭が見えてきた。地域の力のまとめ方は事務局案のとおりとしたい。

(3)住民、各種団体との意見交換会について

(委員長)：本日の二つ目の論点である、意見交換会の具体策について事務局案の提示を。

(事務局)：資料③を基に事務局案を提示。

意見交換会では、地域の支え合いの現状を知るために多くの声を集めたい。「地区の状況を教えてください」「団体の活動状況を教えてください」という形で意見交換を予定。第1回策定委員会で使用した「♪なるほど！小諸市地域福祉活動計画♪」を意見交換会当日の配布資料とする。出された意見は協議事項(1)、(2)で協議頂いた4つのテーマに分類、整理し、次回策定委員会にて報告する。日程の都合がつく限りで、意見交換会への委員の同席をお願いしたい。

(委員長)：事務局案を基に意見交換を。

(委員)：資料9 ページ「住民・団体意見交換の実施日程」を見ると既に実施されたものがある。説明を。

(事務局)：本来であれば、本日の委員会にて承認をいただいた後に意見交換会を実施すべきであるが、先方の都合を優先して実施日程を調整した結果、本委員会前に意見交換会の開催となったものがある。

(委員)：テーマ設定や時間配分によって出される意見の質と量が左右されると思われる。

(委員)：出された意見を4つのテーマに整理・分析する手法は分かりやすい。

住民意見交換会は高齢者を中心とした市民との意見交換になるだろう。若い世代の参画が少なく、今後の地域の担い手が育たないという課題はこの意見交換会に限らない問題である。

12月11日に小諸市PTA連合会にて意見交換会がある。若い世代の中には社協会費を支払うメリットが分からないという意見がある。社会福祉協議会として、若い世代に対してどのようなアプローチを行うのかを考えてほしい。

(副委員長)：子どもの数が多い区の地域の力は強いと思われる。地域の力を維持するためには、高齢者と子どもの力の活用が必要。この視点を地域福祉活動計画に盛り込みたい。

(委員長)：多くの声を活動計画に反映させたい。他市町村地域福祉活動計画書を見ると、公民館と社会福祉協議会の連携に触れている所は見当たらない。今日の意見交換の中でこの連携の重要性が認識されているので、連携の仕組みを活動計画に盛り込みたい。ここまでの部分を整理して事務局よりコメントを。

(事務局)：公民館と社会福祉協議会の連携の重要性など、活動計画を作り上げる上で基礎になる部分が見えてきた。支え合いの気持ちがあっても形にすることが難しい方がいることに関しては、一層の配慮を要すると感じている。つながるきっかけの重要性も感じた。様々なきっかけを提供できるような活動計画としたい。

(事務局)：多くの意見が出される意見交換会の手法を考えたい。高校のボランティア部やPTA連合会との意見交換を通して、幅広い世代からの意見を集めたい。

(事務局)：各事業の実参加者数は統計を取りつつ可能な限り提示したい。区未加入者への支援は今後の検討課題として捉えている。公民館活動参加者の減少と地域内の支え合いには関連性があると考えている。思いがあってもきっかけがないとつながりにくいという意見や、温かい気持ちで募金等に協力いただいている方の思いを知ることができ、きめ細やかな支援の必

要性を感じた。「支え合い」をキーワードに多くの意見が交換されたと思う。今回の資料にあるように、地域の力に関する情報は不足している。意見交換会やアンケート調査を活用し情報を集めたい。

- (副委員長)：地域の方が福祉や支え合いをどう考えているのか聞き出せると良い。この部分が見えてくると、今回の計画で取り組むべき内容が見えてくる。
- (委員)：一般的に住民意見交換会では、区役員に動員がかかることが多い。実のある意見交換会にするためには地域福祉に関心のある住民の参加が必要である。資料9ページには「参加者数(想定)」とあるが、想定の根拠が知りたい。また、地域福祉に関心のある住民が意見交換会に興味を持つようなキャッチコピーがあれば知りたい。
- (事務局)：住民意見交換会に関しては各区長に案内文章を出した。地域福祉に関心のある方3名程度に呼びかけてほしいと案内文章に記してあり、呼びかける対象の一例として民生委員等と例示している。参加想定人数は一区3名を想定して算出した。案内文章に主旨等を記したが、キャッチコピーの用意はない。
- (委員)：意見交換会に頭数を集める必要はない。参加人数から見えるものもある。ボランティア活動や地域活動に関心のある方の参加を期待する。
- (委員)：案内文章に、一例として民生委員を挙げてあるとの説明であるが、民生委員しか集まらなければ地区で開催する意味がない。支え合い活動に関心のある方に住民意見交換会に参加していただくことが本来の趣旨だと思う。
- (事務局)：先ほどの説明を補足する。住民意見交換会に関する区長への案内文章では、地域福祉に尽力されている方の参加をお願いしている。意見交換会とアンケート調査を併せて多くの意見を集めたい。
- (副委員長)：参考までに、PTAは市内の小学校と同数の6つの組織。若い人の力を地域の力とするためには小学校区を単位とする考え方もある。
- (委員長)：第2期、第3期の計画のつながるような基礎を作り上げたい。意見交換会の概要は事務局提示資料のとおり実施で良いか。
- (委員)：異議なし。

4. その他

情報公開の状況について(資料④)

(事務局)：資料④を基に情報公開の状況を説明。

信濃毎日新聞と小諸新聞への掲載記事ならびに、社協情報こもろ9月、11月号の記事と小諸市社会福祉協議会ホームページ内の地域福祉活動計画のページの印刷物を資料とした。なお、社会福祉協議会ホームページ内の地域福祉活動計画のページの本日までの閲覧数は232件である。

5. 次回会議

(委員長)：事務局より提案を。

(事務局)：委員会以外の場における委員の交流の必要性があるとの意見を受け、次回策定委員会後に新年会の開催を提案する。具体的には平成26年1月21日(火)15:00～第3回策定委員会とし、終了後、新年会としたい。

(委員長)：異論なければ事務局案としたいがいかがか。場所については事務局で調整を。

(委員)：異議なし。

(委員長)：予定していた議事は以上。まだ少し時間があるので、意見交換したい。

(委員)：いろいろな所で役員のなり手がいないという課題を聞く。役員が敬遠される理由は「魅力がない」「面白くない」に集約される。自らの組織の在り方が今のニーズに合っているのかを振り返る必要がある。

(委員)：こどもみこしやドカンショ等の市民イベント影響も少子高齢化の影響を受けている。区の再編成も必要となる時期が来る。高齢者福祉施設と小学生の交流の機会がある。小中学校と福祉が連携して、このような取り組みが広がれば支え合いにもつながる。

ここでの議論が具体的な行動に繋がらなければ意味がないので我々の責任は重い。

(委員長)：今回は以上とする。

6. 閉会